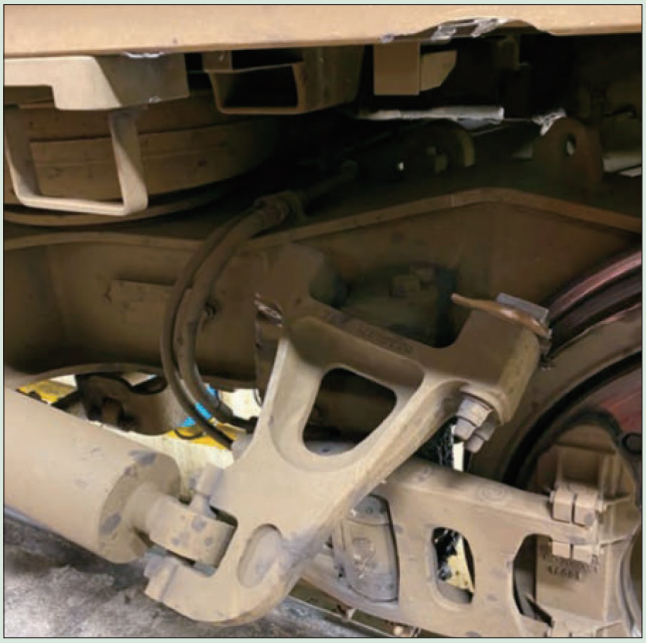
イギリスで新型車両の溶接部の亀裂が多発

原題：*Structural failures sideline multiple-unit fleets*

●著者・所属：Tony Miles
●誌名：Railway Gazette International　Vol.177　No.6（2021-6）　pp.36-39
●言語：英語

イギリスでCAF社が納入した195系気動車が車体とヨーダンパをつなぐブラケットの溶接部の亀裂により車体から外れていることが4月に見つかった。195系気動車と、同じ構造を持つ331系電車の合計101編成の一斉点検の結果、27編成で亀裂が見つかった。イギリスの各社での調査の結果、日立製の特急車両800、801、802系と近郊電車385系にも多数の車両で亀裂が見つかった。5月11日時点でグレートウエスタン鉄道の93編成のうち運用可能なのはわずか2編成、ロンドン北東鉄道では65編成中31編成である。両社の主力特急車両なのでダイヤに大きな混乱を招いている。日立車の亀裂の深さは15mmというケースがあり、長さは最大285mmと報告されている。累積走行キロが長い車両に多いので疲労が関わっているという意見や、溶接部へのストレスと化学的腐食の複合のためという意見があるが、現在日本とイギリスで原因究明中である。修復作業は複雑で時間を要すると見込まれ、全編成の対策工事完了は2022年末と予想されている。



ヨーダンパ受の破損が見つかったため、CAF社製の電車、気動車は、当面の対策として補強板が取り付けられる。

出典　Railway Gazette International

800、801、802系車両のアルミニウム製のボルスタに亀裂が見つかった。このボルスタには車体上げ作業用のポケット（左）とヨーダンパを受けるブラケット（右）が取り付けられている。

出典　Railway Gazette International